

田中大通信

第34号
R7.07.21

国道4号の舗装改良を強く要望

藤沢・沼館・浜子地区を
重点とした整備について
国交省の担当者に

かねてより皆様からご要望のあった国道4号線の藤沢・沼館・浜子地区の路面状況について、4月22日、現地にて国土交通省の担当者に直接、舗装の改良を強く要望いたしました。

私の要望に対し、国土交通省は迅速に対応してくださり、翌23日には「舗装断面コア抜き調査」が、さらに5月20日・22日には「開削調査」が実施されました。そして、これらの詳細な調査結果に基づき、今後、改良補修工事を行っていただけるとの確約を得ることができました。

これからも町民の皆様一人ひとりの声に真摯に耳を傾け、安全で快適な町づくりのために、粘り強く取り組んでまいります。

国土交通省青森河川道路事務所の担当者に現状を説明する田中大



二男が小学校卒業・中学校に入学しました。



皆様にお世話になりながら、すくすくと成長しております。

自衛隊の皆様へ、心からの敬意と感謝を

6月7日、8日の両日にわたり開催された、陸上自衛隊第9師団創立63周年記念行事にお招きいただきました。7日には青森市の新町通りで市中パレードが、8日には記念式典が執り行われました。

近年、国内外で頻発する災害に際し、常に危険な現場の最前線で職務を遂行される隊員の皆様には、深く敬意を表する次第です。

国民の生命と安全を守るという崇高な任務にあたる全ての隊員の皆様に、改めて心からの感謝を申し上げます。



パレードに参加した、第9音楽隊や第9師団に配備されている車両

ホタテ養殖の新たな技術を探る

茂浦・水総研で 調査と意見交換

2月3日の階上町「公益社団法人青森県栽培漁業振興協会」への視察に続き、3月18日には地元・平内町茂浦にある「水産総合研究所」を訪れ、ホタテ養殖技術について調査しました。

水産総合研究所では、吉田所長及びホタテガイ振興室の吉田室長と、本町の基幹産業であるホタテ養殖の現状や、餌となる陸奥湾のプランクトンについて、大変有意義な意見交換をさせていただきました。

今回の視察で得た知見を生かし、将来の可能性として注目される陸上養殖なども見据え、本町のホタテ養殖がさらに発展するよう、引き続き学びを深めてまいります。

ホタテ養殖に県の強力な後押し

宮下宗一郎知 事と懇談

先日、宮下知事と懇談し、本町の基幹産業であるホタテ養殖について、県の強力な支援策を確認いたしました。

知事は、県内各地で106回開催した対話集会の声を反映、「青森新時代」に向けた令和7年度予算を編成したと力強く語られました。

特に、ホタテ産業の振興には合計5億6千万円もの予算が計上されています。具体的には、①生産の効率化、②スムーズな事業継承の支援、③ベビーホタテの欧州等への輸出促進、といった事業に充てられるとのことでした。

さらに、近年課題となっている種苗不振や高水温被害に対応するため、新たな生産技術の開発にも県として取り組んでいくとの心強いお話を伺

いました。

町民の皆様の生活に直結するこの重要な課題について、私も宮下知事と密に連携し、本町のホタテ産業の発展に全力で貢献してまいります。



ホタテ養殖技術の研究が進む
平内町茂浦の水産総合研究所

夜間のタクシー 運行は町民の声

飲食店は悲鳴をあげている

(田中大)

最近タクシーに関して、町民の方から
の声が多くなっております。

特に夜の時間帯、タクシーが呼んでも
来ない、つかまらないという声がたくさ
ん聞かれます。実際、現在町内で営業し
ている北星交通株式会社平内営業所に伺
ったところ、夜7時から深夜0時までは
一台体制。そして深夜0時以降から朝ま
でにかけては、タクシーが一切稼働して
いない状況です。

この深夜帯、特に深夜0時から朝方ま
での時間帯こそ、町民の不安が最も大き
くなる時間帯です。例えば、夜中に体調
を崩して医療機関を受診し、入院にはな
らなかった場合や、救急車で搬送された
家族の付き添いの方が帰れない場合。ご
家族の迎えが難しい方は、タクシーの始
業時間まで病院で朝を迎えるしかないとい
うことになります。独り暮らしの高齢
者、免許返納をした方などが増える中、

こうした状況は一時的な課題ではなく、
今後ますます頻度が増えてくると予想さ
れます。

また、夜間タクシーの不足は町内の飲
食店にも大きな影響を与えています。町
民の方からは、「タクシーがないから夜
に歩けない」「飲み会に行っても帰り
の足がなくて不安」といった声が届いて
いますし、お店の方からも「客足が遠の
いている」という悲鳴のような声が上が
っています。

今後、町としては、この時間帯の安全
確保や、緊急時の代替手段を含めた交通
支援策を、タクシー事業者との協議の中
で具体化していく必要があると確信して
います。

来年度からの新たな公共交通計画を考
える中でも、この「夜間・深夜帯」の課
題をどう位置づけるかは、大きな焦点に
なるのではないのでしょうか。

検討していく

(町長)

以前のように24時間いつでもタクシ
ーを利用することができない状況と

なっており、夜間の移動手段に困って
いる方が一定数いらっしゃることは、
町としても認識しております。

今後、タクシー事業者へのヒアリン
グや、町民のニーズと費用対効果を考
慮した上で、事業実施の必要性や可能
性について検討したいと考えておりま
す。

タクシー事業者が撤退しないように

(田中大)

県内ではすでにタクシー事業者が撤
退した町もあります。横浜町や五戸町
で、今では移動手段が大きく制限さ
れ、町民の生活にも影響が出ていると
聞いています。

当町から、タクシー事業者が撤退し
ないよう、地域と事業者と行政が一緒
になって、課題に取り組むべきと考え
ます。



北星交通タクシー

「書かない窓口」 推進を求める

便利な行政サービスを

(田中大)

近年、自治体の窓口業務においても抜本的な改革が求められており、住民にとっての「面倒」「わかりづらい」「待たされる」という三重苦を解消し、誰もが使いやすい行政サービスを実現するために注目されているのが、「書かない窓口」の導入です。

「書かない窓口」とは、来庁者が手書きで申請書を記入することなく、職員が聞き取りや本人確認を行いながら、システムを通じて申請内容を入力し、必要な手続きが一元的に行える窓口です。

例えば、引っ越しに伴う手続きを例にとると、従来であれば、住民異動届をはじめ、国民健康保険、印鑑登録、児童手当、介護保険、学校の転校届など、複数の窓口でそれぞれ申請書を書き、長時間を要するケースが多くありました。

これに対し、「書かない窓口」では、

来庁者は1か所の窓口で全体の手続きを済ませることができ、職員が一括して情報を扱うことで、記入ミスや漏れも防ぐことができます。

また、実際に導入している自治体では、住民から非常に高い評価を得ており、北海道北見市を皮切りに、全国各地、青森県内では青森市や外ヶ浜町で書かない・待たない・迷わない窓口改革に成功し、行政サービスの信頼性向上にもつながっております。青森市では、引っ越しに伴う手続きの所要時間が、従来の平均90分から30分以下に短縮され、一日あたりの窓口対応件数が約1・5倍に増えたにもかかわらず、職員の残業時間がむしろ減少したという効果が報告されています。

紙に書かせることで生まれていた「形式的な距離感」を取り払い、職員と住民が「対話を通じて課題を解決し、共に考える」窓口の実現こそが、これからの自治体が目指すべき新しい姿です。

庁舎移転時から
2030年までに導入

(町長)

町では、昨年度に県の伴走支援を受け、窓口デジタルトランスフォーメーションに関する計画を作成しております。その計画には町民が行政サービスをスムーズに受けられるよう、「書かない窓口」についても載せているところでございます。

新庁舎移転時から2030年までに「書かない窓口」を目指すこととしております。

田中大連絡先

〒〇三九―三三二一

平内町小湊新道46の203

後援会事務局

電話 〇一七―七六三―〇一七〇

公式
Facebook

公式
Youtube

公式
Instagram

